

# 第155回 中小企業の景気動向調査

## 調 査 要 項

調 査 時 点	平成25年3月上旬
調 査 対 象 期 間	平成25年1月～ 3月実績 平成25年4月～ 6月見通し
調 査 対 象 企 業	当金庫お取引先 1,808 社(大阪府内ならびに尼崎市)
回 答 企 業 数	1,321 社
回 答 率	73.1%
調 査 方 法	調査票郵送および聞き取り調査
分 析 方 法	アンケート調査による各質問項目で「増加」したとする企業数が全体に占める構成比と「減少」したとする企業数の構成比との差(DI)を中心にして分析を行いました。

## アンケート企業の内訳

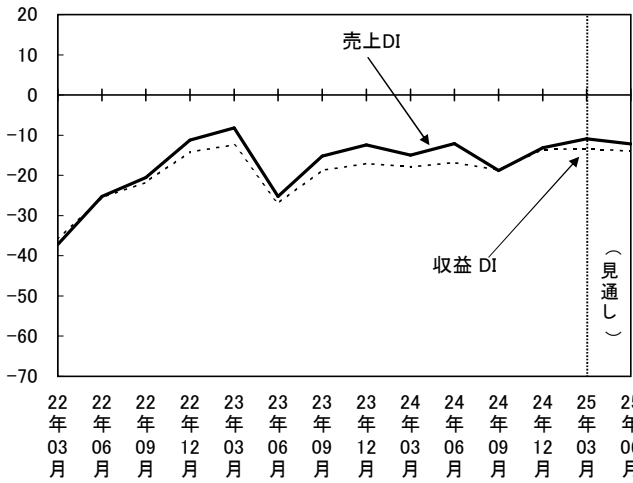
業種別 従業員別	製造業	卸売業	小売業	飲食業	建設業	サービス業	運輸業	不動産業	計	構成比	累計 構成比
1～4人	60	50	116	52	42	75	3	50	448	33.9%	33.9%
5～10	116	55	36	17	71	38	10	17	360	27.3%	61.2%
11～20	107	26	11	6	46	23	19	6	244	18.5%	79.6%
21～30	37	11	6	7	10	12	10	2	95	7.2%	86.8%
31～50	37	8	9	4	5	19	10	2	94	7.1%	93.9%
51～100	17	5	3	4	6	7	7	0	49	3.7%	97.7%
101～	10	5	3	2	1	7	3	0	31	2.3%	100.0%
計	384	160	184	92	181	181	62	77	1,321	100.0%	
構成比	29.1%	12.1%	13.9%	7.0%	13.7%	13.7%	4.7%	5.8%	100.0%		

# 総合

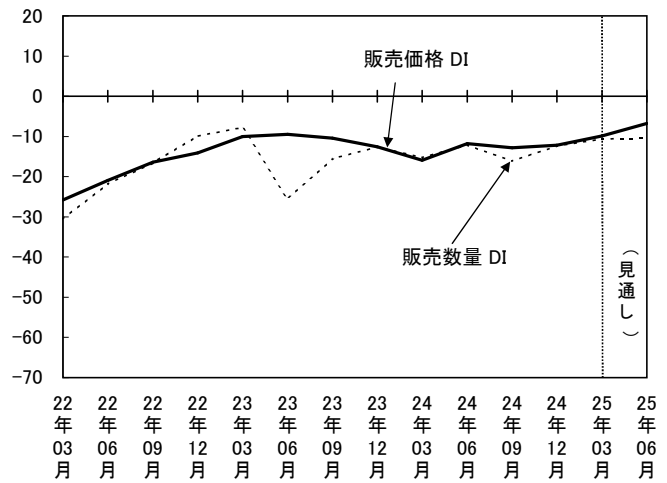
(1,321社)

## アベノミクス効果 80%以上の中小企業が実感せず！

【売上受注・収益DIの推移】



【販売価格・数量DIの推移】



◆いつ効果が届くのか◆

売上DIはマイナス10.9（前回比+2.2ポイント）、収益DIはマイナス13.3（前回比+0.2ポイント）となり、売上DI・収益DIともに上昇しました。

平成25年4-6月期は、売上DIは1.3ポイント、収益DIは0.6ポイント下落すると予想しています。

大手企業では、世界経済の回復やアベノミクス効果にとまなう円安・株高で景気は上向いています。しかし、中小企業ではアベノミクスへの期待感はあるものの景気の先行きに慎重な見方が多く、大手企業ほどの回復感はありません。

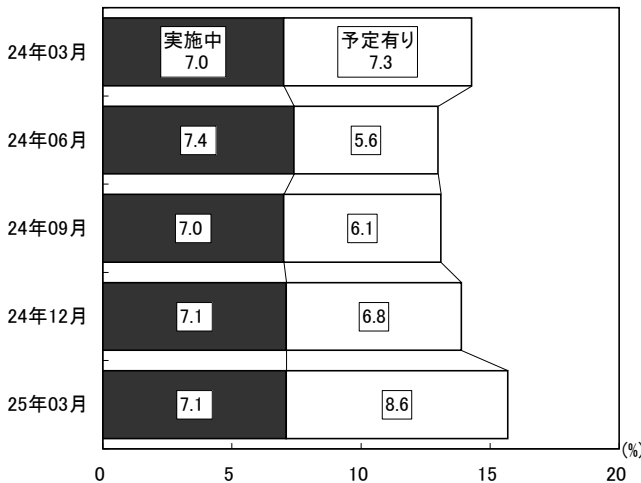
◆販売価格DI 2.3ポイント上昇◆

販売価格DIはマイナス9.9（前回比+2.3ポイント）、販売数量DIはマイナス10.6（前回比+1.7ポイント）となり、販売価格DI・販売数量DIともに上昇しました。

平成25年4-6月期は、販売価格DIが3.1ポイント、販売数量DIは0.2ポイント上昇すると予想しています。

日銀による物価上昇目標の発表から、業種別では、販売価格DIは製造業や卸売業、建設業で大きく上昇すると予想しています。

【設備投資】



◆上向く設備投資、高まる景気回復への期待◆

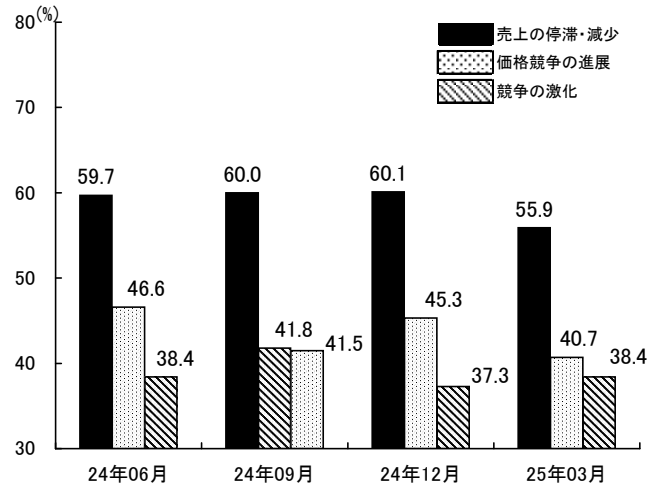
「実施中」は7.1%（前回比+0.0ポイント）、「予定有り」は8.6%（前回比+1.8ポイント）となりました。「実施中」と「予定有り」の合計は15.7%です。

特に、設備投資を予定する企業が大きく増加しました。

業種別では、製造業や飲食業、建設業、サービス業で設備投資を予定する企業が大きく上昇しました。

景気回復期待感が高まり、これまで慎重であった設備投資を予定する企業が大きく増加しています。

【経営上の問題点】(複数回答)



◆待ち遠しい効果◆

第一位は「売上の停滞・減少」が55.9%、第二位は「価格競争の進展」が40.7%、第三位は「競争の激化」が38.4%となりましたが、同業者間の競争は依然として厳しい状況が続きます。

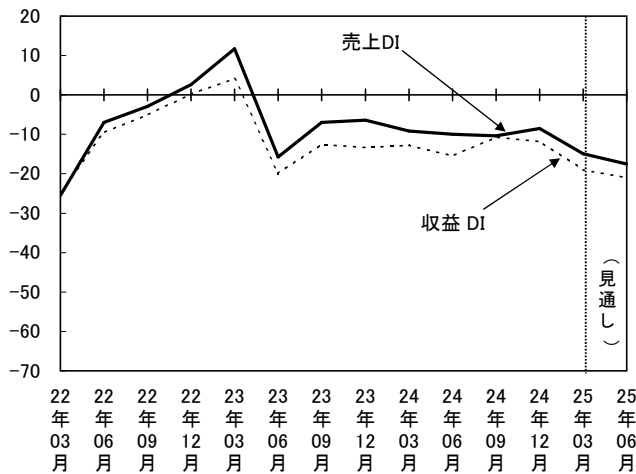
景気回復への期待感から、「売上の停滞・減少」は減少しました。アベノミクス効果による景気回復への期待感が高まっていますが、中小企業にはその効果はまだ届かず、景気の先行きを慎重に考える企業が多いと思われます。

日銀の新しい金融緩和策とも連動して、アベノミクス効果が一刻も早く中小企業に届くことが望まれます。

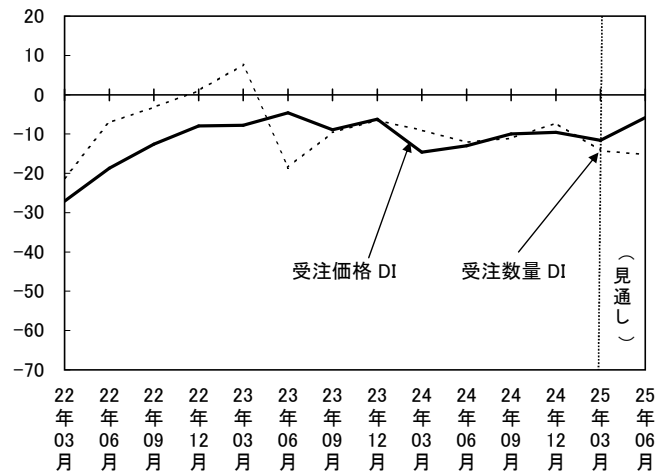
(中小企業診断士：平山)

# 先行き不透明感増す 円安によるコスト増も

【売上受注・収益DIの推移】



【受注価格・数量DIの推移】



◆円安に推移するも業況悪化◆

売上DIはマイナス14.9（前回比-6.4ポイント）、収益DIはマイナス19.0（前回比-7.2ポイント）となり、売上DI、収益DIともに下落しました。平成25年4-6月期は、売上DIが2.6ポイント、収益DIが1.9ポイントともに下落すると予想しています。

安倍政権発足後、アベノミクスの効果により為替相場は円安に推移し、大手製造業では企業心理が大きく上向きました。しかし、中小製造業では景気回復の兆しはあるものの受注の増加など具体的な効果は少ない状況で、景気の先行きも未だ慎重に見ています。

企業の一部には、震災ガレキ処理に使う養生フェルトの製造を24時間体制で対応して業況が著しく改善する企業も出てきています。

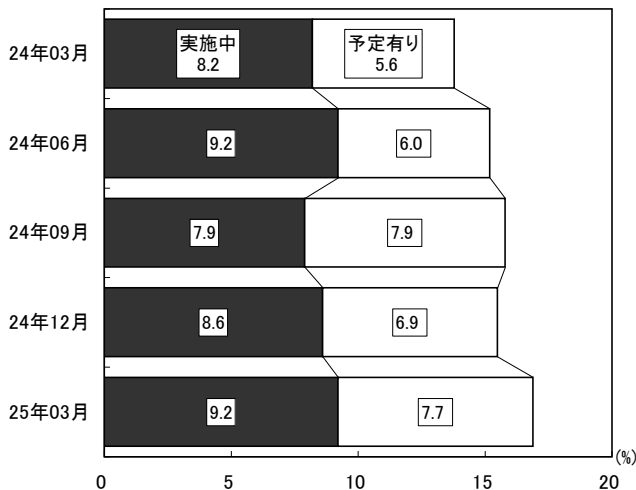
◆受注数量激減◆

受注価格DIはマイナス11.6（前回比-2.0ポイント）、受注数量DIはマイナス14.2（前回比-7.0ポイント）となり受注価格DI・受注数量DIともに下落しました。平成25年4-6月期は、受注価格DIが5.8ポイント上昇し、受注数量DIは1.0ポイント下落すると予想しています。

1-3月期は、見積もりベースでの相談は多かったものの、成約に繋がらないケースが多くなりました。頻繁な値引き要請で採算が取れない受注は、断るケースもあります。

日銀による物価上昇目標の発表から、受注価格は今後上昇すると予想しています。

【設備投資】

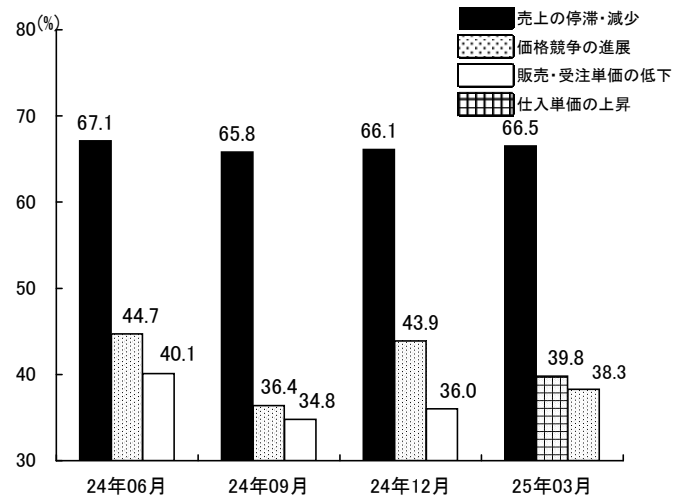


◆高まる設備投資意欲◆

「実施中」が9.2%（前回比+0.6ポイント）で、「予定有り」が7.7%（前回比+0.8ポイント）となりました。「実施中」と「予定有り」の合計は、16.9%です。

設備投資の内容は、機械等の新設・増設が57.8%と最も多くなり、景況感の回復から設備投資に積極的な企業が増加しています。資金調達方法は、「全て自己資金」が30.9%、「全額借入する」が29.1%となりました。

【経営上の問題点】(複数回答)



◆懸念されるコスト増◆

第一位は「売上の停滞・減少」が66.5%、第二位は「仕入単価の上昇」が39.8%、第三位は「価格競争の進展」が38.3%となりました。

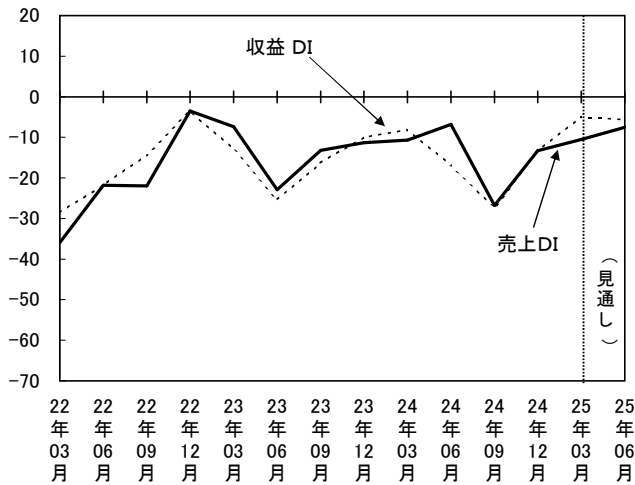
昨今は、中国製品価格の高騰や円安の進行により、国内メーカーにも価格競争力が戻り始めています。しかし、原油価格の高騰や円安による部品・部材の値上げなど輸入コストの増加が予想されるだけでなく、電気料金の引上げによる影響もあり、一層のコスト削減が求められます。

(中小企業診断士：兵庫、尾崎、稲津、井筒、吉田)

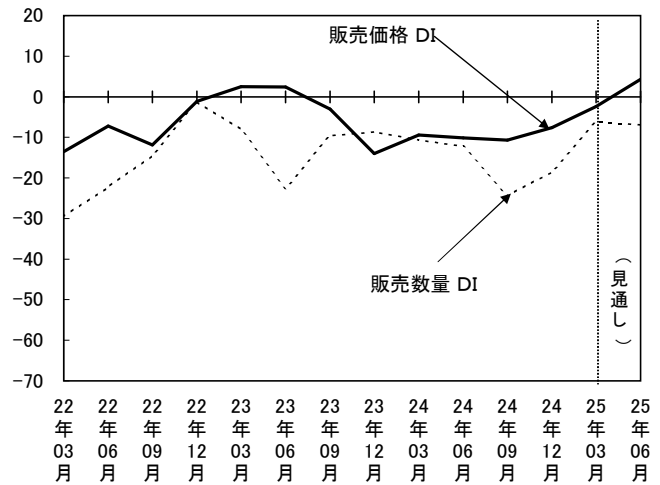
# 卸売業 (163社)

## 建築関連卸、景気回復への期待感高まる！

【売上受注・収益DIの推移】



【販売価格・数量DIの推移】



◆建築関連卸、景気回復への期待感高まる◆

売上DIはマイナス10.5（前回比+2.8ポイント）、収益DIはマイナス4.9（前回比+8.5ポイント）となり、売上DI、収益DIともに上昇しました。平成25年4-6月期は、売上DIは3.0ポイント上昇し、収益DIは0.7ポイント下落すると予想しています。

輸出企業では、円安が進行し海外のバイヤーから商品の引き合いが増加しています。しかしバイヤーは、円安がさらに進行することを見込み価格交渉は難航しています。

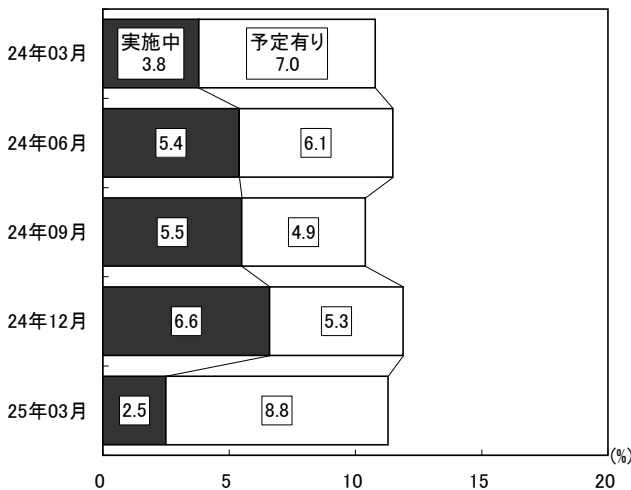
建築金物卸売業では、消費税率引上げ前の駆け込み需要で、売上高の増加が見込まれます。

◆販売価格DI、販売数量DIともに上昇◆

販売価格DIはマイナス2.4（前回比+5.2ポイント）、販売数量DIはマイナス6.2（前回比+12.3ポイント）となり特に数量は大きく上向きしました。平成25年4-6月期は、販売価格DIは6.7ポイント上昇し、販売数量DIが0.7ポイント下落すると予想しています。

販売価格DIは、賃上げ要請や日銀の物価上昇目標の発表で上昇すると予想しています。

【設備投資】



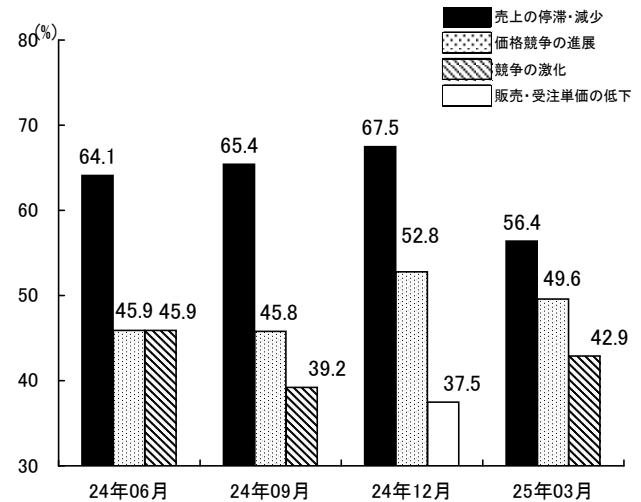
◆「予定あり」急増◆

「実施中」が2.5%（前回比-4.1ポイント）、「予定有り」は8.8%（前回比+3.5ポイント）となり、「実施中」と「予定有り」の合計は11.3%です。

特に「予定有り」が急増しました。

設備投資の内容は、「事務所、店舗等の保守・更新」や「車両」が多く、資金調達方法は6割が自己資金で調達しています。

【経営上の問題点】(複数回答)



◆駆け込み需要あり◆

第一位は「売上の停滞・減少」が56.4%、第二位は「価格競争の進展」が49.6%、第三位は「競争の激化」が42.9%となりました。

景気回復への期待感が高まり、「売上の停滞・減少」は前回調査から11.1ポイント低下しました。しかし、同業者間の価格競争をはじめとした競争はますます激化しています。

建築関連の卸売業では、消費税率引上げ前の駆け込み需要がすでに出始めており先行きに期待しています。

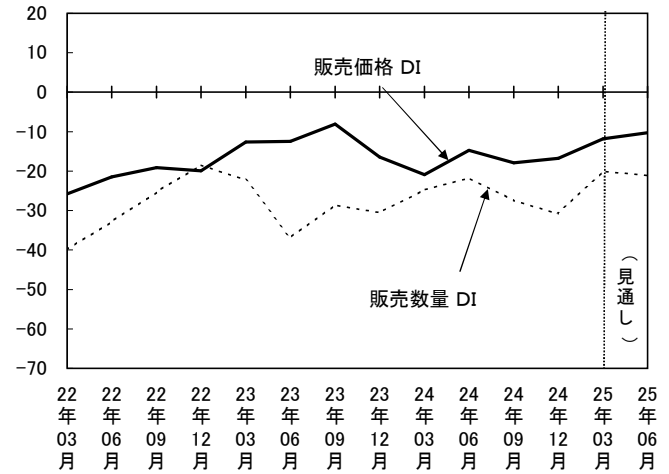
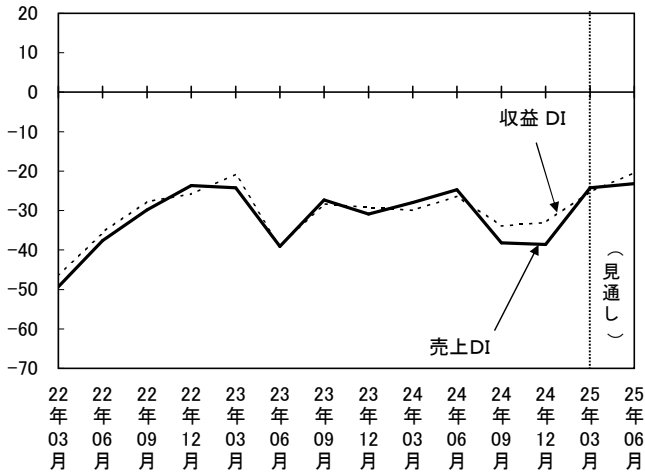
(中小企業診断士：稲津、宗和、嶋田)

# 小売業 (187社)

## 景気回復に期待あれど 見通しは厳しい

【売上受注・収益DIの推移】

【販売価格・数量DIの推移】



◆急回復する売上DI◆

売上DIはマイナス24.2（前回比+14.4ポイント）、収益DIはマイナス25.2（前回比+7.8ポイント）となり、売上DI・収益DIはともに上昇しました。

平成25年4-6月期は、売上DIが1.0ポイント、収益DIが4.8ポイントともに上昇すると予想しています。

消費者の購買意欲は、新政権による景気回復への期待や産業界への賃上げ要請から上向きました。しかし、今後の景気の見通しは慎重に考えています。

◆物価上昇へ期待◆

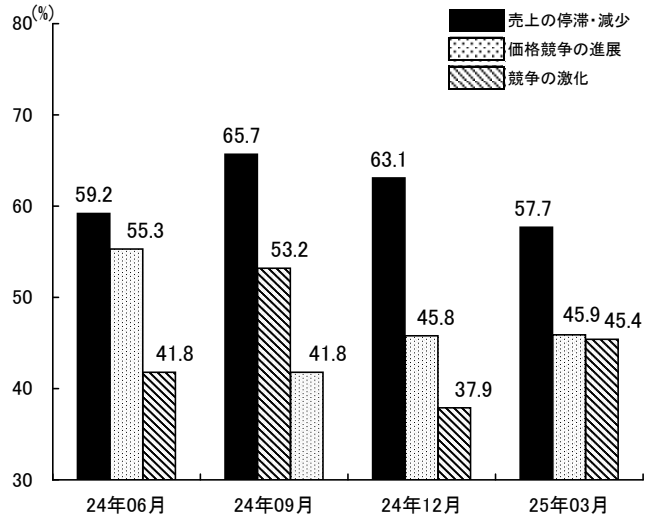
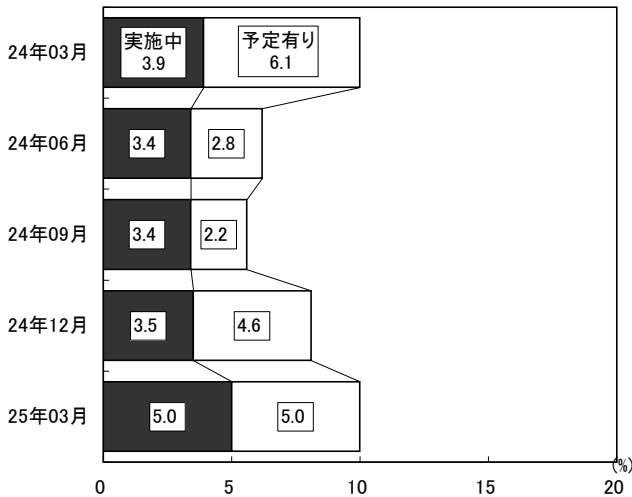
販売価格DIはマイナス11.8（前回比+5.0ポイント）、販売数量DIはマイナス20.0（前回比+10.8ポイント）となり、販売価格DI・販売数量DIともに上昇しました。

平成25年4-6月期の見通しは、販売価格DIが1.5ポイント上昇し、販売数量DIが1.1ポイント下落すると予想しています。

小売業でも、物価上昇への期待から販売価格DIの上昇を予想しています。

【設備投資】

【経営上の問題点】(複数回答)



◆設備投資意欲回復◆

「実施中」は5.0%（前回比+1.5ポイント）、「予定有り」は5.0%（前回比+0.4ポイント）で、「実施中」と「予定有り」の合計は10.0%となりました。

設備投資の内容は、「店舗の新設・増設」や「車両」が多く、資金調達方法は自己資金が約半数となりました。

◆売上回復すれど競争激化◆

第一位は「売上の停滞・減少」が57.7%、第二位は「価格競争の進展」が45.9%、第三位は「競争の激化」が45.4%となりました。

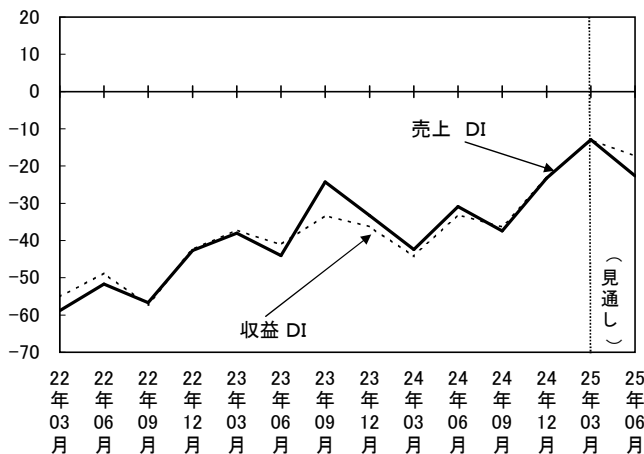
景気回復の期待感から、消費者の購買意欲は少し回復しましたが、同業者間の競争は依然激しく景気の先行きを楽観していません。

(中小企業診断士：澤田、楠、金澤)

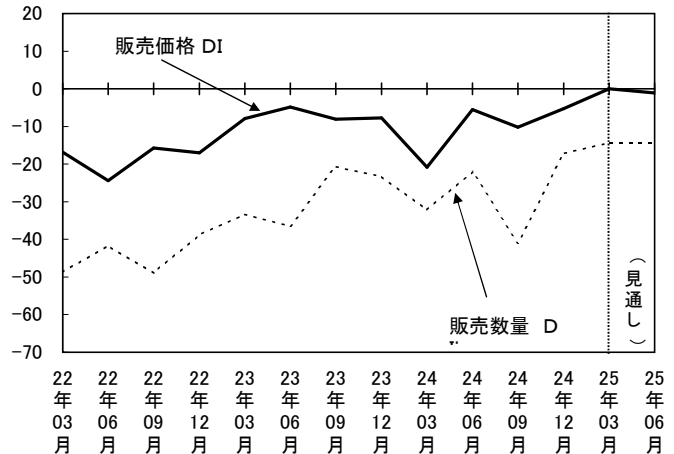
# 飲食業 (93社)

## 賃上げ要請効果か？ 外食急増

【売上受注・収益DIの推移】



【販売価格・数量DIの推移】



◆外食急増◆

売上DIがマイナス12.9（前回比+10.3ポイント）、収益DIがマイナス12.9（前回比+10.3ポイント）となり、売上DI・収益DIともに上昇しました。平成25年4-6月期は、売上DIが9.7ポイント、収益DIが4.3ポイント下落すると予想しています。

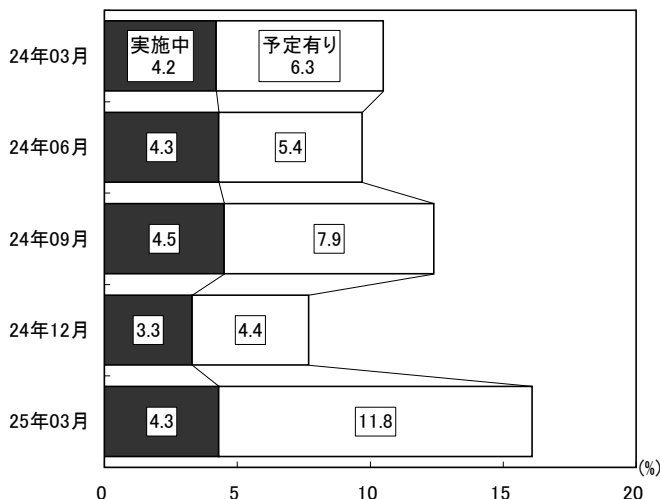
景況回復への期待や、人事異動・昇給昇格時期で宴会の申込みが増加しました。しかし、家族連れの顧客は、ショッピングセンター内のフードコートに奪われています。他店にないオリジナルメニューやお店自慢のメニューがある店が固定客を掴んでいます。

◆賃上げ効果？販売価格DI上昇◆

販売価格DIは±0.0（前回比+5.3ポイント）、販売数量DIはマイナス14.3（前回比+2.9ポイント）となり、販売価格DI・販売数量DIともに上昇しました。平成25年4-6月期は、販売価格DIが1.1ポイント下落し、販売数量DIは±0.0と予想しています。

景況回復への期待や大手企業による賃上げ発表で、消費者は外食する機会が増えました。また、蟹や河豚など高価な商品の注文も増加しています。

【設備投資】

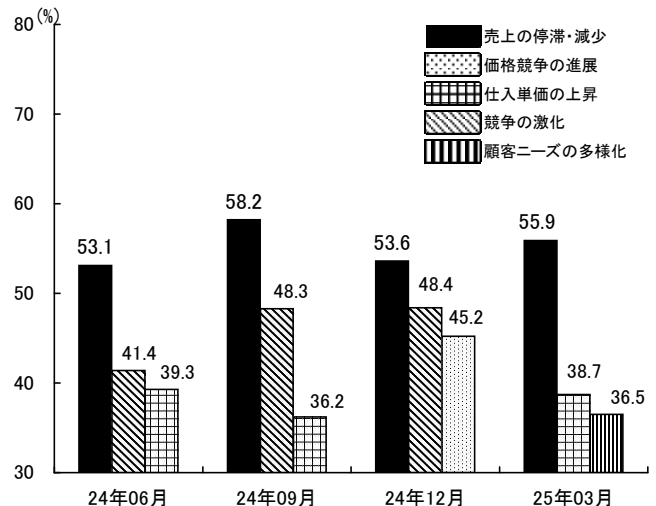


◆「予定あり」が急増、設備投資意欲回復◆

「実施中」は4.3%（前回比+1.0ポイント）、「予定有り」は11.8%（前回比+7.4ポイント）となりました。「実施中」と「予定有り」の合計は16.1%となりました。

設備投資の内容は、店舗の更新が53.3%と最も多くなりました。資金調達方法は「全て自己資金」が50.0%となり、借入による大掛かりな設備投資は少ないと思われます。

【経営上の問題点】(複数回答)



◆懸念される食材価格の上昇◆

第一位は「売上の停滞・減少」が55.9%、第二位は「仕入単価の上昇」が38.7%、第三位は「顧客ニーズの多様化」が36.52%となりました。

繁華街では、競争が激しく出店、廃店のサイクルは短くなっています。野菜など一部食材の価格が上昇し、消費者が飲食店に求めるニーズは多様化しています。

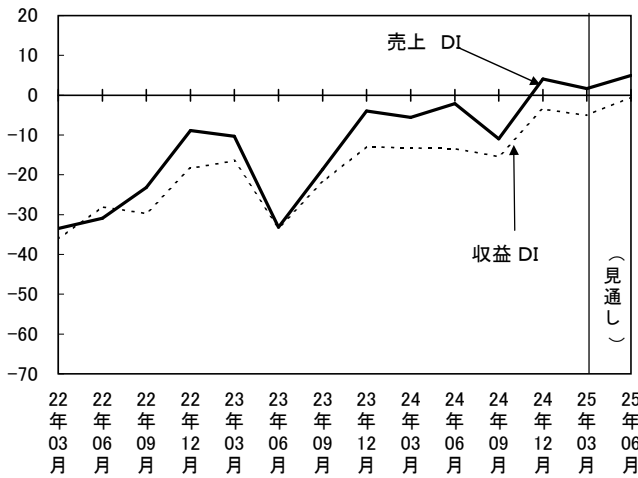
固定客を掴むためには、中食や内食には無い魅力ある品揃えが必要です。

(中小企業診断士：仲井、澤田)

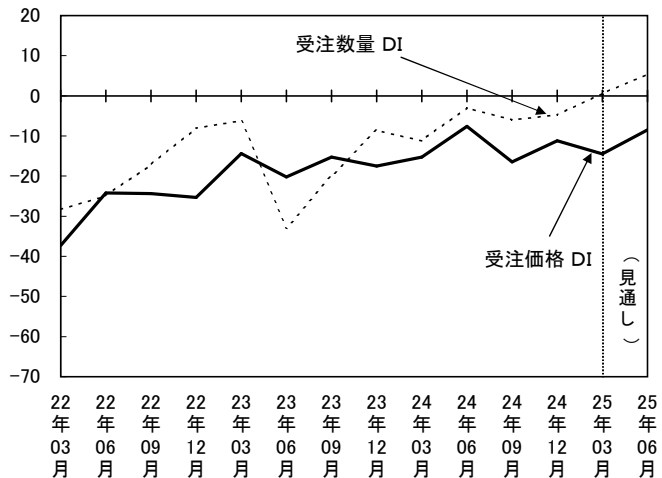
# 建設業 (181社)

## 消費税率引上げ前の駆け込み需要はじまる！

【売上受注・収益DIの推移】



【受注価格・数量DIの推移】



◆駆け込み需要はじまる◆

売上受注DIはプラス1.7（前回比-2.4ポイント）、収益DIはマイナス5.0（前回比-1.5ポイント）となり、売上DI・収益DIともに下落しました。平成25年4-6月期は、売上DIは3.3ポイント、収益DIは4.5ポイント上昇すると予想しています。

安倍政権成立後、公共工事増加への期待が高まっています。

マンションや工場など事業所向け改装工事が順調に推移し、来年の消費税率引上げ前の駆け込み需要がすでに始まっています。

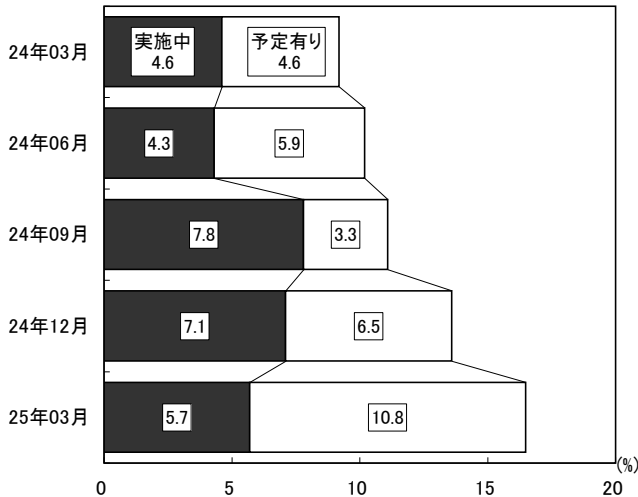
企業の一部には、大手靴小売店の新規出店にともなう内装工事の下請で受注が増加し、業況が大きく改善している企業もあります。

◆受注価格DI上昇の見通し◆

受注価格DIはマイナス14.5（前回比-3.3ポイント）と下落し、受注数量DIはプラス0.6（前回比+5.3ポイント）と上昇しました。平成25年4-6月期は、受注価格DIが6.0ポイント、受注数量DIが4.8ポイント上昇すると予想しています。

公共工事増加への期待はあるものの、価格競争は依然として激しい状況にあります。しかし、建設業では業界内の人員不足から、金額が高めの見積りで成約に至るケースも出てきています。今後は、デフレ脱却への期待もあり受注価格・数量ともに上昇すると予想しています。

【設備投資】

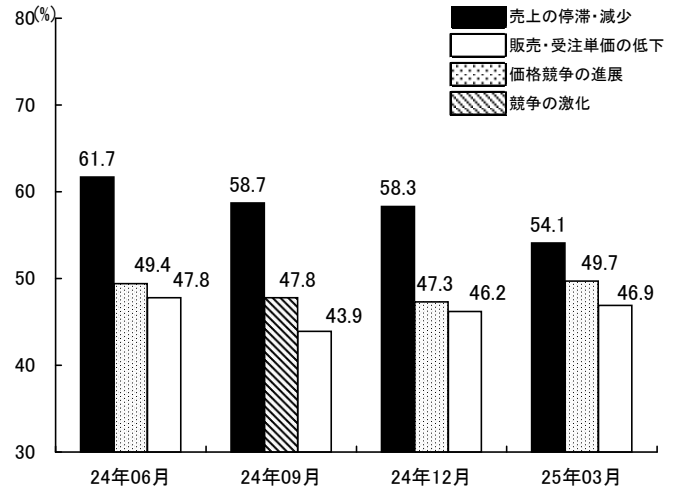


◆「予定有り」が急増◆

「実施中」は5.7（前回比-1.4ポイント）、「予定有り」は10.8（前回比+4.3ポイント）で、「実施中」と「予定有り」の合計は16.5%です。

「予定あり」が急増し、設備投資意欲は大きく回復しました。設備投資の内容は、「車両」が41.3%で最も多くなりました。また、資金調達方法は「全て自己資金」が33.3%、「5割以上借入する」が29.6%となっています。

【経営上の問題点】(複数回答)



◆駆け込み需要+低金利に期待◆

第一位は「売上の停滞・減少」が54.1%、第二位は「価格競争の進展」が49.7%、第三位は「販売・受注単価の低下」が46.9%となりました。

来年4月の消費税率引上げ前に、住宅の購入を検討する顧客が増加し、「売上の停滞・減少」は54.1%に減少しました。

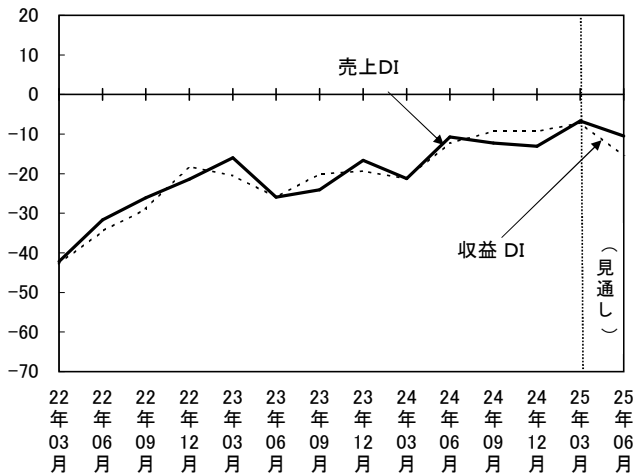
日銀の大幅な金融緩和を背景に、住宅ローン金利は当分低金利に推移すると思われ売上高の増加に繋がるとを期待しています。また、職人の高齢化が進み、ハローワークの求人募集でも若い人材が不足しています。

(中小企業診断士：兵庫、尾崎、井筒、吉田)

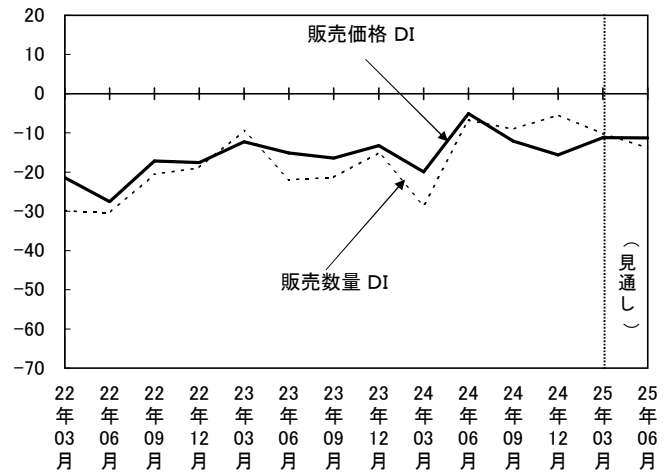
# サービス業 (160社)

## 介護業 人件費高騰 収益性が悪化

【売上受注・収益DIの推移】



【販売価格・数量DIの推移】



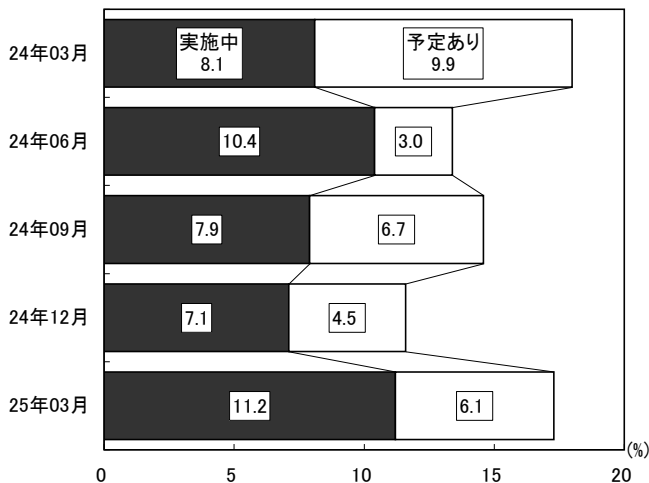
◆先行き不透明感あり◆

売上DIはマイナス6.7（前回比+6.4ポイント）、収益DIはマイナス7.2（前回比+2.1ポイント）となり、売上DI・収益DIともに上昇しました。平成25年4-6月期は、売上DIが3.8ポイント、収益DIが8.3ポイントともに下落すると予想しています。介護サービス業では、近隣の同業者間で競争が激化し、人材確保のため人件費などのコスト増加により、収益性が悪化しています。

◆販売価格が上昇◆

販売価格DIはマイナス11.2（前回比+4.4ポイント）、販売数量DIはマイナス10.1（前回比-4.7ポイント）となり、販売価格DIが上昇し、販売数量DIが下落しました。平成25年4-6月期は、販売価格DIが0.1ポイント、販売数量DIは3.6ポイント下落すると予想しています。旅行業は、円安が進行し今年には国内旅行が増加すると思われれます。

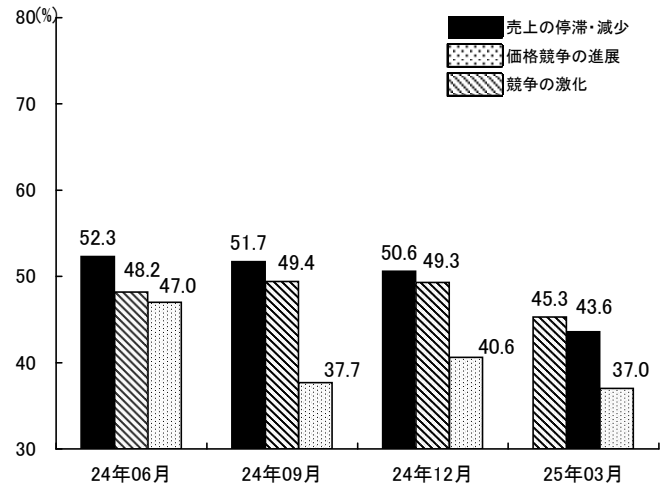
【設備投資】



◆大きく上向く設備投資◆

「実施中」が11.2%（前回比+4.1ポイント）、「予定あり」が6.1%（前回比+1.6ポイント）となり、「実施中」と「予定あり」の合計は17.3%となりました。設備投資意欲は大きく上向きました。設備投資の内容は、「機械等の保守・更新」が32.2%と最も多く、資金調達方法は「全て自己資金」が53.8%で、借入金を利用する大掛かりな設備投資には慎重です。

【経営上の問題点】(複数回答)



◆競争の激しさ増すサービス業◆

第一位は「競争の激化」が45.3%、第二位は「売上の停滞・減少」が43.6%、第三位は「価格競争の進展」が37.0%となりました。経営上の問題点では「売上の停滞・減少」が24年12月比7ポイント下落し、景気回復への期待は高まっています。介護サービス業では、従業員教育として資格取得を積極的に支援しています。

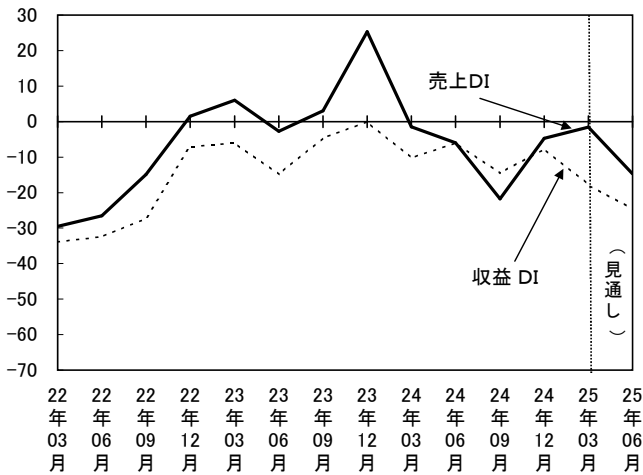
(中小企業診断士：金澤、嶋田)



# 運輸業 (62社)

## 懸念される燃料費の上昇

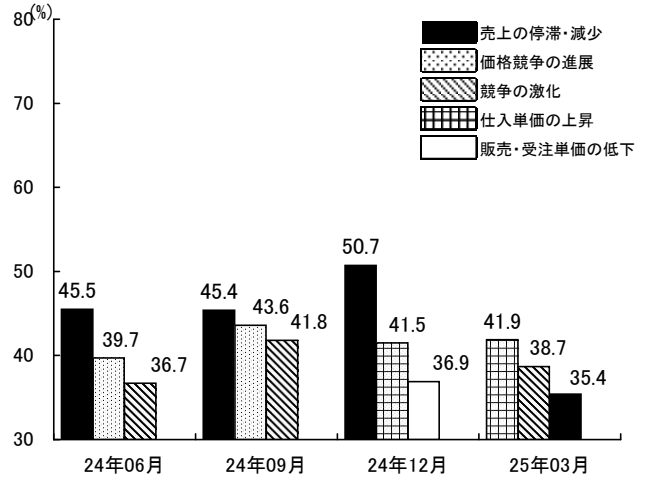
【売上受注・収益DIの推移】



◆懸念される燃料費の上昇◆

売上受注DIがマイナス1.6（前回比+3.1ポイント）、収益DIがマイナス17.8（前回比-10.1ポイント）と売上DIが上昇し、収益DIは下落しました。平成25年4-6月期は、売上DIが13.1ポイント、収益DIは6.8ポイント下落すると予想しています。景気回復への期待から売上高は上昇しました。しかし、為替相場は円安に推移し、ガソリン・軽油価格の上昇が予想され、収益は厳しくなると思われます。

【経営上の問題点】(複数回答)



◆競争激化、見通し悪化◆

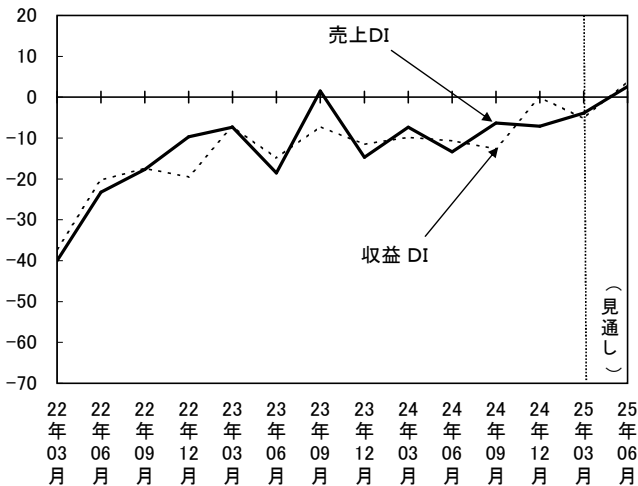
第一位「仕入単価の上昇」が41.9%、第二位は「競争の激化」が38.7%、第三位は「売上の停滞・減少」が35.4%と続きます。景気回復への期待から、「売上の停滞・減少」は35.4%と減少しましたが、相見積もりが多く価格競争は厳しい状況です。また、運転手を募集しても若い人は少なく、人材獲得にも苦労しています。

(中小企業診断士：兵庫、真下)

# 不動産業 (78社)

## 価格上昇気配あり 交渉難航

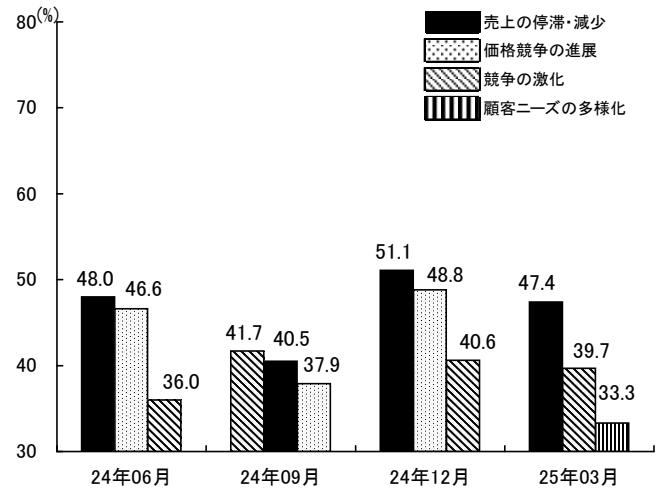
【売上受注・収益DIの推移】



◆物件あれど価格交渉難航◆

売上DIはマイナス3.9（前回比+3.2ポイント）、収益DIはマイナス5.2（前回比-5.2ポイント）となり、売上DIは上昇し、収益DIは下落しました。平成25年4-6月期は、売上DIが6.5ポイント、収益DIは9.1ポイント上昇すると予想しています。景気回復の兆しがあり、事業者には物件購入意欲が始めています。しかし、事業者は今後不動産価格の上昇を予想しており、価格交渉が難航するケースが見られます。消費税率引上げ前の駆け込み需要への期待や、異動による転居から売上・収益ともに見通しに明るさがあります。

【経営上の問題点】(複数回答)



◆物件購入需要増加◆

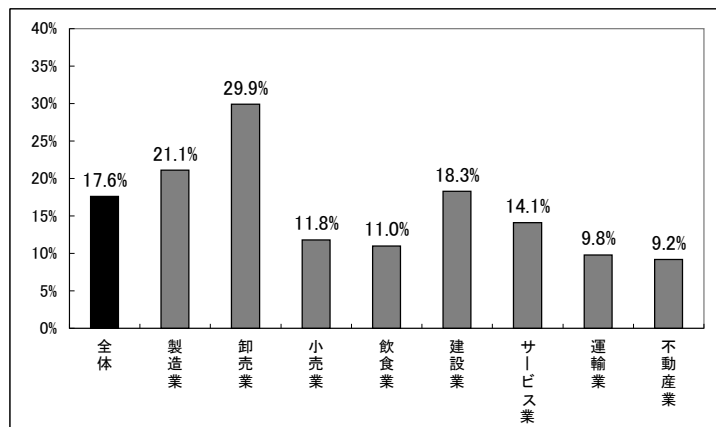
第一位「売上の停滞・減少」が47.4%、第二位は「競争の激化」が39.7%、第三位は「顧客ニーズの多様化」が33.3%となりました。収益物件の購入を希望する業者は多く、利回りの低い収益物件でも立地条件や築浅であれば競合するケースもあります。

(中小企業診断士：仲井、宗和)

# 25年4月昇給予定 (1,278社)

## 昇給実施企業は2割に届かず！

### ◆◆昇給を実際する割合(業種別)◆◆

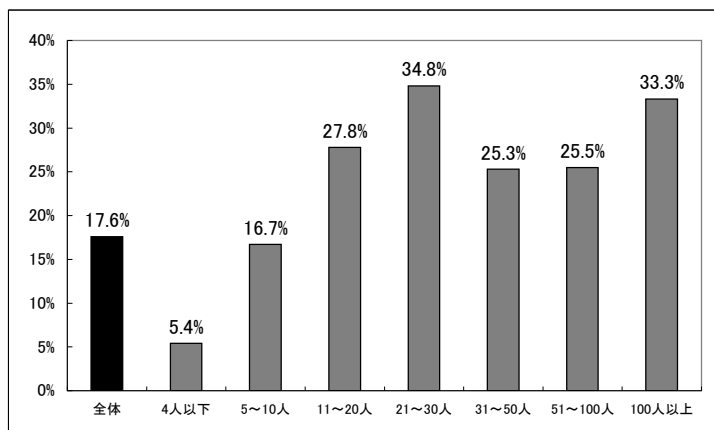


25年4月の昇給は、全体としては17.6%の企業が予定しています。(平成24年4月は15.7%)

前年と比べてプラス1.9ポイントで、昇給実施企業割合は、景気回復への期待から前回調査に比較して増加しました。

業種別では、製造業、卸売業、建設業が全体を上回り比較的高い水準となっている一方で、小売業、飲食業、サービス業、不動産業、運輸業では、全体を下回りました。

### ◆◆昇給を実施する割合(規模別)◆◆



従業員数の規模で見ると、従業員数が多い企業ほど昇給を実施する割合が高くなっています。昇給予定企業が最も多いのは、従業員21~30人で34.8%になりました。

全体的に従業員規模が小さくなるほど昇給を実施する割合が低くなる傾向(4人以下では5.4%)にあります。

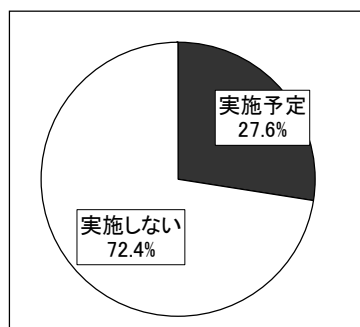
景気回復はまだ中小企業では実感できず、景気の先行きを慎重に考える企業が多いことが背景にあると思われます。

### ◆◆昇給を実施する割合(従業員数の適正度)◆◆

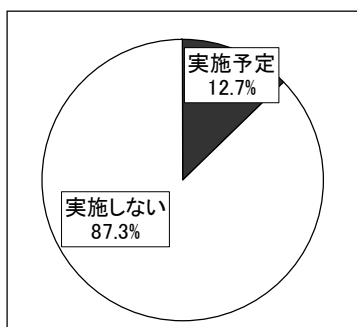
現在の従業員数が「不足」の企業、「適正」の企業、「過剰」の企業に分けて昇給を予定する企業の割合を見ました。昇給を実施する企業の割合は、従業員が不足する企業で実施が27.6%、従業員が適正の企業で12.7%、従業員が過剰の企業で32.0%となりました。

従業員が不足する企業でも、昇給を実施しない割合は72.4%あり、ここでも昇給の実施に慎重な企業が多いことが分かりました。

#### 従業員が不足の企業



#### 従業員が適正の企業



#### 従業員が過剰の企業

